

施工段階		屋上工事		5	設備工事：	シート番号 5-4
電気	空調	衛生	その他		屋上ハト小屋	
○	○	○	○			

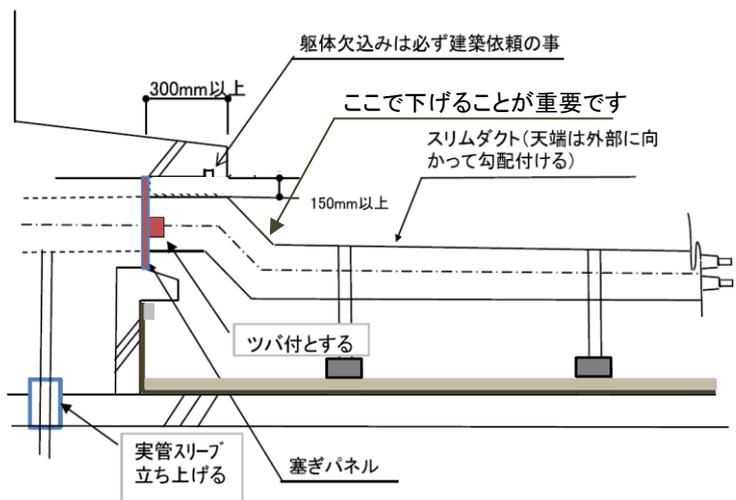
ポイント

■ハト小屋とは

- ・設備機器が集中する屋上に、電気配管や設備配管、ダクトなどを防水層を貫通せずに立ち上げるために必要な躯体形状の総称をハト小屋といいます。

■検討事項

- ・ハト小屋はコンクリート躯体工事のため、建築工事での施工となります。
- ・ハト小屋の形状、大きさを決めるのは設備工事の範疇になります。また、点検口の防水方法、防水立上がりが必要な寸法などは、施工場所によっても変わるので建築との協議が大切です。
- ・貫通の方法も様々で、パネル工法やスリーブでの施工、箱抜きとする方法など、目的に応じ最良の方法を検討してください。
- ・ラッキングが必要な場合など、仕上げへの配慮も必要になります。
- ・小型の場合は既成PCのハト小屋採用による省力化も検討してください。



冷媒配管の貫通例

先輩アドバイス

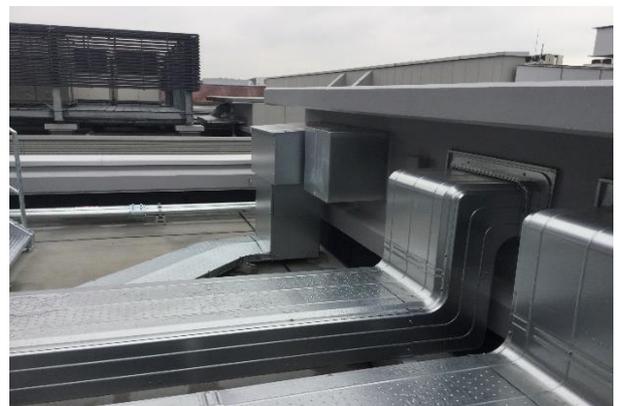
- ・設備担当者が建築担当者と共に、止水処理について検討しましょう。
- ・鋼製枠SD点検口の設置(防水シール共)は、必ず建築に依頼しましょう。
- ・止水性能の品質責任の所在を明確にしておきましょう。
- ・大きさや形状によっては自火報感知器が必要なため所轄消防に確認しましょう。

チェック項目

- 詳細の納まりを施工図にて調整済ですか。
- 貫通物に対し大きさ形状に無理はないですか。
- コーキングやシール方法に問題ありませんか。
- 品質責任の所在は明確ですか。

失敗すると...

- ・納まりが厳しいと、防水性能が確保できず漏水が発生します。
- ・適切なメンテナンス空間や点検口が確保されていないと将来の更新性や維持管理に影響がでます。



共通管理項目	合理化 省力化	施工性 向上	品質・性能 向上	工期 短縮・圧縮	コスト削減 (材料)	コスト削減 (労務)	設備 先行工事	工事区分 見直し	責任所在 明確化
	○	-	○	-	-	-	-	-	○
備考	参考文献：						制定	2019年3月1日	
	参考メーカー：						改訂	2023年3月1日	